

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（令和5年度報告）

1 被害防止計画の特徴等
ニホンジカ、ニホンザル、カワウ、イノシシ、タヌキ、ヌートリアを対象としており、鳥獣被害対策実施隊員による有害捕獲を積極的に実施する。
また、市街地周辺に設置している侵入防止柵の管理や地域住民と協力して煙火によるサルの追い払い活動を積極的に行うこととなっている。

2 事業効果の発現状況
捕獲技術に関する講習会を実施し、捕獲技術の向上が見られ、少ない実施隊員で、一定数以上の成果をあげている。

3 被害防止計画の目標達成状況
全体的な達成率は70%以上になったが、個別の項目ではサルの達成率がマイナスの結果になった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

目標値は、令和4年度（被害防止計画R2～R4の目標値）とし、実績値は令和5年度の数値を入力してください。

達成率が低調（70%未満）であった場合、今回は改善計画の提出は不要です。
ただ、被害防止計画（R5～R7）の目標数値の見直しをする必要があります（被害防止計画の変更を行う場合は、県へ協議が必要ですが、事業評価報

事業実施主体名 (構成市町名)	対象地 域	実施年 度	対象鳥 獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開 始	利用率・稼 働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見		
										被害金額(万円)			被害面積(a)						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
小豆島町	小豆島 町全域	2	イノシ シ(成 獣)	有害捕獲	974	-	-	-	平成26年度を境に、小豆島町内 で、イノシシ、シカが急増し、鳥獣 被害件数が増加した。それに伴 い、鳥獣捕獲等助成事業(県単)と 連携しつつ、緊急捕獲活動支援事 業を活用し、有害鳥獣の捕獲と被 害防止に力を入れてきた。令和2 年度から令和4年度はピーク時に 比べ捕獲頭数は減少傾向にあり、 イノシシは約600頭、シカは500頭、 ニホンザルは150頭の減少となっ たが、イノシシ、ニホンジカに関し ては、適正な数に近づいている が、サルに関しては、捕獲の難しさ が原因で捕獲頭数は減少した。	141	120	143.9%	550	90	292.1%	猟友会、関係団体等と連携し、被害 防止対策を実施している。また、農 地を守るための侵入防止柵をつける 農家が増えたため、イノシシやニホ ンジカの被害件数が減少した。しか し、ニホンザルは捕獲や被害防止が 難しく、小豆島全域に群れが拡散さ れたため、被害数が増加した。今後 は、ニホンザルの捕獲に力を入れ、 被害軽減につなげていきたい。	サルは捕獲対策で被害軽減につな がりにくい動物である。したがって単 に捕獲の強化で解決しようとするの ではなく、地域住民参加による集落 ぐるみの追い払いを柱とした対策の 強化や侵入防止柵の適切な設置、 放置果樹の除去などを組み合わせ た総合的な対策が必要である。地域 住民の主体的な取組みを推進する ことでサルの被害防止につなげてほ しい。 (香川県農政水産部農業経営課 主 任専門指導員(鳥獣害)矢木聖敏)		
			ニホン ザル (成獣)		45														
			ニホン ジカ (成獣)		656														
		3	イノシ シ(成 獣)		924													25	440
			ニホン ザル (成獣)																
			ニホン ジカ (成獣)																
		4	イノシ シ(成 獣)		988													33	383
			ニホン ザル (成獣)																
			ニホン ジカ (成獣)																
		5	イノシ シ(成 獣)		976頭														
			ニホン ザル (成獣)		31頭														
			ニホン ジカ (成獣)		397頭														

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2：業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載す
3：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。